



こもれびの森の樹木 (19)

早春、こもれびの森の情景は冬の枯葉色からひそかに変化します。2月から3月にかけては小高木が主役です、**ダンコウバイ**(クスノキ科クロモジ属)、**アブラチャン**(クスノキ科クロモジ属)や**サンシュユ**(ミズキ科ミズキ属)がそれぞれ葉のでる前に黄色の花をつけます。



新緑のこもれびの森 (4/27 撮影)

森でよく見かけるのは低木のウグイスカグラ(スイカズラ科スイカズラ属)が薄紅色の花をうつむきかげんに1個ずつ咲いています。

4月にはいと主役はサクラです、中央広場の緑地のサクラは見ごたえがありますが、こもれびの森では圧倒的に**ヤマザクラ**が多く4月中旬には森の中の空をよく見上げると満開に咲いています。また、この頃から冬枯れの樹木が芽吹き始め、最初に**イヌザクラ**が新緑の葉を出しているのが見られます、そして5月になると森全体が鮮やかな新緑に

変わります。

今回のこもれびの森の珍しい木は**フサザクラ**(和名総桜、房桜)です。サクラの名前が付いていますがバラ科のサクラではなくフサザクラ科フサザクラ属でヤマグルマやカツラ科等と類縁関係があり、花の様子が似ています。樹形は落葉高木でよく枝分かれし、高いのは15mにもなります。

樹皮は褐色で横長の皮目があるが、こもれびの森のフサザクラはキズタが樹幹に巻きついていて樹皮が見えません。

花は3月中旬にあまり花らしくない花が葉の展開する前に開花します。短枝の先に5~12個の花が集まって垂れ下がった雄しべが目立ちカツラの雄花によく似ています。

花が終わり葉だけになると目立たなくなります、丸い葉は尾状に長く尖った葉先と明瞭な羽状脈、不ぞろいな粗い鋸歯、長い葉柄が特徴です。葉裏は白っぽく脈が隆起しています。クワの葉に似ているのでタニグワと呼ばれる地方名があります。

果実は翼果、長い柄で垂れ下がり10月頃黄褐色に熟すと、風によって飛ばされます。パイオニア植物で崩壊地や裸地に侵入し、また、萌芽により個体を維持します。(林)



フサザクラの花 (3/25 撮影)

木もれびの森の野鳥たち

5月

<若葉の季節は、巣作り、子育て真っ最中>

木や草が日ごとに成長していく中、同時に虫たちも目覚め、活動開始です。4月の始め、夏鳥の代表ツバメが渡ってきました。数の少なかった**ツグミ**は、中央広場向かいのヤブが多い林に序々に数を増して集合。北の国へ帰る前の栄養補給です。林の下の草地で、日中のほとんどを食べ物をとって過ごしていました。その中でツグミの仲間の**アカハラ**は、時折よくとおる声で「キョロロン、キョロロン、チー」とさえずりを繰り返していました。

常緑のアオキや低灌木が葉を広げた中を、**コジュケイ**がけたたましく「チョットコイ」と鳴き出したり、**ウグイス**が喉をふるわせ「ホーホケキョ」を上手に繰り返します。

木もれびの森のシジュウカラやヤマガラ・コゲラたちは、早くも繁殖活動に入っています。木のうろに巣材を運んだり、コゲラは朽ちた枝にノミのようなくちばしで丸い巣穴を掘り進めています。



例年5月連休前後には、夏鳥のオオルリ、キビタキ・センダイムシクイ・エゾムシクイたちが旅の途中の立ち寄りで、それぞれ独特の美しいさえずりを聞かせてくれます。6月、去年は久しぶりにカッコウがやってきて、数日「カッコウ」と鳴き、同じ頃サンコウチョウも姿を見せました。

散歩の途中、道端ではカワラヒワがタンポポの綿毛をむしりとり食べていたり、スズメのヒナが「シリシリ・・・」と食べ物をねだる声が届いたり、森を歩くと楽しい出会いがたくさん待っています。(瀬尾)
(写真:左はアオゲラの掘った試みの巣穴、右はシジュウカラが巣穴として利用した木のうろです)

木もれびの森のつる植物

年々温暖化が進んでいますが今年は天候の不順で春一番が吹かず2月・3月は寒さも厳しく、梅や桜の開花も遅れ植物も戸惑っているのではないのでしょうか。

今年度はこもれびの森の「つる植物」を取り上げてみました。

【つる植物】 つる植物には草本と木本があります。

【つる植物】 自らの力で体を支え立ち上がるのではなく 茎が巻きついたり・巻きひげ・気根・とげなどで物にひっかかり支えられながら立ち上がる植物のことです。

今回はカラスウリ・アオツヅラフジ・ヘクソカズラ・センニンソウを取り上げました。(田崎)



カラスウリ(花と果実)



アオツヅラフジ(花と果実)



ヘクソカズラ(花と果実)



センニンソウ(花と果実)

カラスウリ (烏瓜)	ウリ科	巻きひげで物にからみつき立ち上がる。花は日没後しばらくして開き、日の出前にはしぼみます。花はレースの糸のように細かく裂け美しい。 種子は大黒様と呼び、うちでの小づちの形でこれを財布の中に入れておくとお金がふえると言う伝えがあります。
アオツヅラフジ (青葛藤)	ツヅラフジ科	茎が巻きつき立ち上がる。小枝は緑色で細かい毛が多い。葉は先が丸く浅く三裂する物もあり両面とも短毛がある。雌雄異株。 多くの黄白色の花が穂になって咲く。花は小さく殆んど目立たず秋になるとブドウのような果実をつけ人目を引く。
ヘクソカズラ (屁糞蔓)	アカネ科	茎は左巻きに絡み立ち上がる。気の毒な名前がつけられているが、この草の葉をもんで臭いをかぐとその意味が分かるそうです。 可愛いしゃれた花が咲くので別名にサオトメバナの名がある。 早乙女[田植え娘]がかぶった帽子に似るのでサオトメバナの名がつく。
センニンソウ (仙人草)	キンポウゲ科	葉柄が他の草にからむ。十字形にならぶ花弁のようなものはがく片です。ときには白い花で葉を隠してしまうほど沢山の花が咲きます。 果実には白い羽毛のような毛がついて、風にのり散布されます。 名は果実の毛を仙人の白毛とみたてたものだそうです。